

## 本時のねらい

- ・英語で説明する動画を撮影することを通し、より良い読み方（抑揚・発音）を意識する。
- ・SV00 の文型には that 節があることを知る。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・個々に作成した動画を見直し、より良い読み方をしているものを提出することを通し、読み方（抑揚・発音）を注意して発表することが出来る。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Google フォーム（前時までに回答したもの）
- ・マイク付きヘッドフォン
- ・学習支援ソフト（Google Classroom）
- ・大型モニター
- ・カメラ機能

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶</li> <li>○Warm Up として、ペアで帯学習の英会話をする。（会話の内容は、次のターゲットが含まれている。）</li> <li>○SV00 の文型の復習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会話のデータを事前に配信しておく。</li> </ul>
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SV00 の that 節を、簡単に説明する。</li> <li>○アンケートの集計結果を一つ示して、表現の仕方をペアで考える。</li> <li>○ペアで交流した表現を全体で共有する。</li> <li>○資料から読み取った内容についてマイク付きヘッドフォンを使って、録画する。</li> <li>○録画したものを提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のことについてのアンケート結果（好きなお菓子、教科、旅行したい国など）をフォームで集計することで、よりリアルで興味がわく。</li> <li>○共有することで、表現の仕方を参考にすることが出来る。</li> <li>○マイク付きヘッドフォンを使うことで、録画した声が良く聞こえるようになり、発音などにこだわることが出来る。</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○録画した内容を文章にして書く。</li> <li>○挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめの文章は、あえてデータで送るのではなく書かせることにした。（すべてをタブレットでするのではなく、書くことで定着しやすいと考える。）</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】 帯学習である英会話の様子。セリフはターゲットの文法などが含まれている。



【写真 2】 ヘッドフォンをしながら録画している様子。



【写真 3】 自分の録画したセリフを、書いている様子。端末と紙のハイブリット

## 児童生徒の反応や変容

- ・フォームで実際にアンケートをとったので、自分の結果と比べてどうだったのかを知ることが出来て、より興味がわいて発表できる。
- ・子どもたちにとっては、初めての録画発表だったが、ICT に対する学習速度はこちらが予測するより速く、すぐに取り組むことができた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・英語の表現について、何度も録画をして確認し、自身の発音を客観的に聞くことは、相手や目的を意識した学習になった。画面にグラフを出しながら、なおかつ生徒の顔も映し出して画面録画する方法をとることで、オンライン会議の実際の状況と似た環境で、英語の表現を学んでいくことができた。